

確かな学力の定着・向上をめざして ～より充実した活用学習と学級力向上への取組～

I テーマ設定理由

本校では、学力向上に関わって、活用学習と学級力の二本立てで研究を進めてきた。活用学習を実践してきたと言えることは、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着の必要性である。習得が十分にできていないと、活用は難しいということである。そのために、日常的に基礎・基本を重視した取組や言語活動を手立てとした取組を行い、子どもたちが「分かった」「できた」「楽しい」と思えるような授業を展開していくことが求められる。子どもたちの思考力、判断力、表現力や学習意欲を高めていくために、学級の状況や子どもたちの実態を的確に把握し、児童の側に立った授業づくりを考えていきたい。

また、子どもたちによりよい学級づくりを意識させ、学年の発達段階に応じた活動を展開していくことで次第に学級力が高まっていくことも分かってきた。今よりもよい学級をめざして全体で取り組んでいくことで学級としてのまとまりが見られるようになり、学習活動にもプラスの影響が働くと考えられるので、このテーマを設定した。

II 研究の内容

1 活用学習

○今までに実践してきた各学年の単元の実践をさらに深めていくとともに、それ以外の単元での活用学習も広げていく。1年生は、昨年度まで国語科の活用学習に取り組んできたが、今年度は算数科での活用学習に取り組む。

- ・1年 算数 「たし算とひき算」
- ・4年 算数 「計算のきまり」
- ・6年 算数 「速さの表し方を考えよう」

2 学級力

○学年や学級の実態に合った活動内容を広げたり、レーダーチャートを提示するためのアンケート項目の検討を行ったりする。また、年3回学級力ミーティングを行い、教師間の情報交換を図る。

- ・2年 学級活動 よい学級にしよう
- ・3年 学級活動 よい学級に向けてのホップ・ステップ・ジャンプ作戦
- ・5年 学級活動 最高学年に向けて「つきたい力」を考えよう

※英語科の取組について、普段の授業で使える教室英語を中心に学習会を行う。

※家庭学習の内容について検討し、実践につなげていく。

※週3回の朝学習、年数回の自学ノート展示の取組を継続する。

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- 活用学習は、今までの積み重ねの上に、各学年が新たな単元において実践をした。内容の深まりとともに、広がりも意識して取組を行うことができた。
- 6年生の列車の速度の問題や4年生の跳び箱の問題のように、最終的に実生活に繋がるような活用問題に取り組んだことがよかった。
- 子どもたちの思考を深める手立てとしてスモールステップを仕組んだところ、個人差への対応や論理を整理していく上で有効だった。また、学習シートを工夫したことで子どもたちの書こうとする意欲や論述する力が伸びてきた。
- 学年が上がるにしたがって、学級力レーダーチャートを的確に分析する力や自己評価する力がついてきた。子どもたちからは、自分たちの学級をよくするための活動のアイデアが出てくるようになった。
- 学級力アンケートの表記について検討し改良したところ、今まで伸び悩んでいた項目の値が伸びてきた。
- 学級力向上のデータ分析・話し合い・活動という流れが定着してきた。学級力ミーティングでの情報交換では、各学年でどのような活動ができるかということも分かってきた。学級力を高めるための本校としてのスタイルが確立してきた。
- 家庭学習について発達段階を考慮した内容や適切な時間を検討し取り組んだ結果、徐々に定着が図れてきている。

2 課題

- 活用学習の実践により、三段階思考法の論述が身についてきたが、個人差がある。自分の考えが全く書けないという児童は少なくなったが、なかなか書き始められない児童や最後まで書き終えることができない児童への書き方の支援や工夫をさらに考えていく。
- 活用学習の実践に伴って、基礎・基本の習得を徹底させる必要がある。知識・技能の確実な定着が活用学習にも欠かせない。日々の授業の中で力をつけること、朝学習や家庭学習でも繰り返すことで確実な力に繋げていく。
- 学級力向上のための活動が毎年同じようなものになっているところがあるので、幅を広げていく。高学年では常に教師主導でなく、話し合いや活動の一部分を子どもたちに任せられるように力を育てていきたい。

Ⅳ 成果物

- 各学年の活用学習に関わる指導案・学習シート・掲示物
- 学級力を高めるための各学年の活動例
- 家庭学習メニュー・家庭学習頑張りカード

(研究主任 水上久美子)